



2011.9.12 ロンドンロイヤルエアークラブにて

炬燵を囲む会  
の始末記



株式会社松浦機械製作所  
代表取締役会長

松浦 正則 氏  
まつうら まさのり

サー・ヒューコートツツイ元駐日英国大使閣下との出遭いは、1981年、国際政治学者の故若泉敬先生とのご縁で、ご夫妻で、ご来社されたのが最初です。弊社の自動制御フライス盤が、当時のミノルタカメラ殿に採用され、それが英国専門紙に掲載されたのを閣下が目に留め当社に興味を持たれ、ご夫婦共々ヘルメットを被って工場を視察されたのが、昨日のように思い出されます。

その後、若泉先生御一家を通してお付き合いを賜り、今回も久しぶりにこの9月にロンドンのロイヤルエアークラブでランチを頂きながら、若泉先生との思い出等、積もる話をさせて頂き感激した次第です。

今思い返せば、閣下の日本への関心や造詣は大変深く、また私どもにも格別のご厚意を賜り、身内同様のお付き合いをさせて頂きました。

ある時、若泉先生のお口添えで年一回位、お世話になつていらっしゃる方々を招いてオープンに情報交換し、いち早くビジネスに役立つような小規模な晩餐会を開いてはとのご指示を頂き、サー・ヒューから時間を頂戴し、ホテルオークラで会を

催させて頂きました。それをサー・ヒューのユーモアで、コートツツイを文字つて「炬燵を囲む会」と呼び、この会はその後、18回続きました。

主賓は勿論、サー・ヒューであり、主席者はソニーの大賀さん、興銀の黒澤さん、理科学研究所佐田先生等、日本でその道のTOPクラスの20人前後でした。特に、ECからEUへ政治体制が変わりつつあり、通貨の行方は出席者全員が関心を持つており、サー・ヒューのアドバイスはいつも適切で、全出席者が大変喜んでおられました。一番助かったのは、サー・ヒューが大変日本語が堪能で、基調スピーチから質問のやり取りも全て日本語で済む為、全員がそれぞれの意見を戦わせることが出来たことでした。その時のワイン、そしてフルコースのフランス料理がお集まり頂いた皆さんにご満足頂けたのではとちよっぴり自負し、今でも当時のことが懐かしく思い出されます。

出遭いとは不思議なものであり、サー・ヒューには今でもご連絡の上お目に掛かり色々とおアドバイスを頂いており、私の最も大切な財産の一つであり、ご教示頂けることを誇りに思っております。